

【11用 語】

【高反別…たかたんべつ】石高とそれに対応した耕地面積
【名寄…なよせ】土地台帳を作成する際に、耕作者別に耕地の面積・等級・年貢高などを記載すること

【名所…などころ】比較的狭い場所の地名。小字名（こあざな）・小名（こな）。検地帳や名寄帳などを作成する時の記載項目の一つ

【水名…みずな】実際に耕作する小作人（水呑み百姓）の名前のことか？

【高入…たかひれ】新たに開墾した田畑屋敷地を検地し、その石高を定めること

【分米…ぶんまい】「ぶまい」とも。検地によって決定された耕地の等級別石高（生産高）のこと

【此訳…このわけ】内訳のこと

【11解 説】

「名寄帳」（なよせちょう）とは、各村ごとに耕作者別に田畑屋敷地の反別（面積）・地目・等級などを記した帳簿のこと。田畑名寄帳・小前帳（こまえちょう）などともいう。その年の年貢・諸役の割り付けや村入用などを賦課する際に利用される台帳であり、検地帳に基づいて作成された。

本文書は年代が不詳（天明六年以降）であるが、上越国境の三国峠の山麓に位置し、江戸と越後・佐渡国を結ぶ三国街道が通る吾妻郡吹路（ふくろ）村（現、みなかみ町）の高反別名寄帳である。これには耕作者である越後が所持する畑屋敷一筆ごとの名所・地目・等級・面積、そして小作人と思われる水名の名前が記されていることがわかる。ちなみに、越後の所持高（生産高）は総計六斗八升五合とある。